

これならわかるぜ！

ためぐち漢文

——漢文の構造をわかりやすく知りたい君へ—— 漢文の句式編

【第6回】禁止

さあ、今日の講義は禁止の形だよ。

禁止というのは、動作行為を差し止めることをいうんだ。

それには表現するひとの立場や状況によって3つの種類があるんだ。

え？「～するな」が禁止じゃないのか？って？

うん、それも代表的な禁止だけど、ほかにもある。

まず、君たちが言った「～するな」は**禁止**。

それに対して、「～してはいけない」は**警戒**だよ、教え戒める、文字通りの教育的な禁止だね。

さらに「～しないでくれ」は、**否定の命令願望**。

この3つは形の上では区別が難しいこともあって、どんな立場の人がどんな状況で表現したのかで判断するしかないんだけど、要するに相手の行為を差し止めるのが禁止だね。

1. 禁止の副詞を用いる形

①「なかれ」と読む副詞

禁止の形のスタンダードは、否定副詞を用いる形だよ。

「勿」「毋」「莫」「無」は、否定を表す副詞だけれども、禁止を表す場合にもよく用いられる。

己_ノ所_ハ不_レ欲_セ、勿_レ施_ニ於_人。

▼己_{おのれ}の欲_{ほつ}せざる所_{ところ}は、人_{ひと}に施_{ほす}す勿_なかれ。

▽自分が望まないことは、人に対してしてはならない。

これは有名だから聞いたことがあるだろう？ 『論語』に載ってる孔子のことばだね。

ここで用いられてる「勿」は、もともと「いろいろな色が混じり合った旗」という意味だったらしくって、「見えにくい」が原義の字なんだ。

だから否定の意味を表すようになったんだが、その否定の意味を相手に向けると「～してはいけない」という警戒とか、「～するな」という禁止の意味になるわけだね。

いいかい？「勿」は否定副詞なんだから、当然のことながら述語動詞「施」の前に置かれて、連用修飾するんだ。

この位置関係をよく確認しとけよ。
ところで、ここは孔子が先生の立場で、弟子たちに教え戒めてるわけだから、「施してはいけない」と、
教戒で解釈するのが妥当だろう。

ところで、「なかれ」という読みは、日本語のク活用形容詞「なし」の命令形だよな？
だからといって、「ないようにしろ」とか訳さなくていいんだぜ。
また、この禁止の形は「Aすることなかれ」と「こと」を入れて読むこともある。
入れて読んでも、入れなくても、どちらでもいいよ。

母^{カレ}妄^{スル}言^{セシ}、族^シ矣。

▼妄^{ほう}言^{げん}する母^なかれ、族^{ぞく}せられん。

▽でまかせを言うな、一族皆殺しにあうぞ。

ここで用いられている「母」は「とどめる」が原義だという。
だから動作行為の差し止めを表す副詞になったんだね。

ここでは、副詞「母」が述語動詞「妄言」を修飾して、「でまかせを言うな」という禁止を表してる。
秦の始皇帝の行列を見た項羽が「あいつは取って代われるぞ」と言ったのに対して、叔父の項梁があわて
てたしなめたんだ。

もしそんな危険な言葉が始皇帝の行列に聞こえたら、えらいことになるからな。

ここは項梁が叔父の立場から甥の項羽に差し止めてるんで、「するな」(禁止)でいいよね。

苟^モ非^{ザレバ}吾^ニ之^ニ所^ニ有^{スル}、雖^モ一^ト毫^ト而^レ莫^{カレ}取^ル。

▼苟^こも吾^{われ}の有^{いう}する所^{ところ}に非^{あら}ざれば、一^{いち}毫^{ごう}と雖^{いへ}も取^とる莫^なかれ。

▽かりにも自分のものでなければ、ほんのわずかであっても取ってはいけない。

「莫」は本来無指代詞で「莫」と読む語だけど、ここでは禁止を表す否定副詞として用いられてるんだ。
つまり、副詞「莫」が述語動詞「取」を連用修飾する形。

ここでは「取ってはいけない」(教戒)としたけど、状況が変われば「取るな」と禁止で解してもいいね。
ちなみに、漢文で禁止というと、「勿」「母」だというイメージが先に立って、圧倒的に用例が多いと
思われがちだけど、実はこの「莫」が禁止を表す例はかなり多い。

あくまでためぐち先生の印象に過ぎないけど、むしろ「莫」の方が多いいんじゃないか？と思えるぐらい
だから、注意しろよ。

碩鼠 碩鼠、無^レ食^二我^一黍^一。

▼碩鼠^{そくそ}碩鼠^{そくそ}、我が黍^{あひ}を食^くらふ無^なかれ。

▽ねずみよねずみよ、私の黍^{あひ}（＝穀物の名）を食^くべないでくれ。

今でこそネズミなんて、君らは見たことないかもしれんが、昔は結構家に住み着いてた動物だよ。すばしこいし、なかなか捕まえないこのネズミ、人間様の貴重な穀物を食^くべちゃったりしたんだよ。だから、「食^くべないでくれ」と否定の命令願望するわけだ。

「無^レ」は「有^レ」の対義の動詞だけど、ここでは禁止を表す否定副詞として働いている。

この例文の場合は、否定副詞「無^レ」が述語動詞「食^く」を連用修飾してるんだ。

この「無^レ」による禁止の例もかなり多い。

だから動詞「無^レ」として用いられてるのか、否定副詞「無^レ」として用いられてるのか、文脈から判断する必要がある。

え？「無^レ」とか「莫^レ」とか、ちゃんと読んであるからわかるって？

いやいや、白文だったらどうなんだい？君らは入試なんかで白文読まされることだってあるんだぜ。

だから、きちんと文脈から判断する習慣を身につけとかなないと、痛い目にあうぜ。

◎ポイント！…否定を表す「勿^レ」「毋^レ」「莫^レ」「無^レ」は、禁止を表す否定副詞として、述語動詞の前に置かれ、「〜するな」（禁止）・「〜してはいけない」（警戒）・「〜しないでくれ」（否定の命令願望）という動作行為の差し止めを表すことがある。

勿^レ A^{スル}（コト）

▼Aする（こと）勿^なかれ。

▽Aするな。・Aしてはいけない。・Aしないでくれ。

毋^レ A^{スル}（コト）

▼Aする（こと）毋^なかれ。

▽Aするな。・Aしてはいけない。・Aしないでくれ。

莫^レ A^{スル}（コト）

▼Aする（こと）莫^なかれ。

▽Aするな。・Aしてはいけない。・Aしないでくれ。

無^レ A^{スル}（コト）

▼Aする（こと）無^なかれ。

▽Aするな。・Aしてはいけない。・Aしないでくれ。

② 「ぞれ」と読む副詞

これは意外と知られてないんだが、否定副詞「不」が禁止を表すこともある。ただな、もともと「不」は「くしない」という表現者自身の意思がこもる語、つまり「くするつもりはない」という色彩を色濃くもつ語なんで、それを相手に向けて「くするな」という形ではあまり用いられないんだ。

それに対して、先に紹介した「無」は、もともとが存在を否定する語だから、「くすることがない」という客観的な描写を主とするんで、表現者の意思がこもることはない。

「くすることがない」という、命令するものが望んでいる客観的な状況を、相手に示したことから、「そういうことがあってはならない」と禁止の意味をもつようになったんだろうね。

だから、「不」による禁止はきわめて例が少ない。

とはいえ、ないわけではないから紹介しとこう。

今吾尚病。病愈、我且往見。夷子不来。

▼今吾尚ほ病む。病愈ゆれば、我且に往きて見んとす。夷子来たらぞれ。

▽今私はまだ病んでいる。病いがよくなれば、私が（夷のところ）行って面会するつもりだ。夷子は来ないでほしい。

墨子の道を信じている夷子という人が、孟子に面会を申し込んだんだ。

そしたら孟子はあいにく病気。

そこで面会を断るために孟子が言ったのが、この例になる。

普通なら、「夷子母来」とか「夷子勿来」とかいうところなんだが、ここでは「不來」と表現してる。

さっきも言ったように、これはかなり珍しい例なんだよ。

ここでは、否定副詞「不」が「来」を連用修飾して、「来ないでくれ」と否定の命令願望を表してるんだ。

否定副詞「不」を用いる禁止の形も、動作行為の差し止めを表して、どんな立場の人がどんな状況で表現したかによって、「くするな」（禁止）、「くしてはいけない」（警戒）、「くしないでくれ」（否定の命令願望）の3つの意味を表すから、文脈をよく判断して訳そうな。

ところで、「不」は訓読では、打消の助動詞「ず」と読むんで、禁止の場合は、「ず」の命令形「ぞれ」と読むんだ。

◎ポイント…否定を表す「不」も、禁止を表す否定副詞として、述語動詞の前に置かれ、「くするな」(禁止)・「くしてはいけない」(教戒)・「くしないでくれ」(否定の命令願望)という動作行為の差し止めを表すことがある。

不_レ A_{。セ}

▼Aせざれ。

▽Aするな。・Aしてはいけない。・Aしないでくれ。

・「くざれ」と読み、「くなかれ」とは読まない。

さて、「く」までが通常「禁止の形」といわれる形式だよ。

2. 「不可」を用いて禁止を表す形

「べからず」ってことばがあるじゃないか？

「公園で野球すべからず」とか「ゴミ捨てるべからず」なんてぞ。

「公園で野球してはいけない」「ゴミを捨ててはいけない」って意味だよ。

古いところでは「このはしわたるべからず」なんてのもあるぞ。

え？知らないって？ほら、一休さんだよ。

誰もが通りたい橋の真ん前に意地悪にも「このはしわたるべからず」と書いた立て札が立ってる。

みんな困り果てた時に、一休さんが堂々と橋を渡っていくんで、尋ねてみると、「この端わたるべからず」って書いてあるから、端じゃなく真ん中を歩いているんですよ。

さすがとんち一休！

でぞ、この「べからず」ってのはどついう意味だい？

そう、「しちやいけない」って意味じゃないか。

今でもちよつと古風な言い方だけど、ちゃんと君らにも意味がわかる、生きてる古語なんだよ。

古くから漢文訓読で用いられた表現で、漢文で書くと「不_可」^{カラス}「_可」^{カラス}となる。

そもそも「可_レ」^カという助動詞にはいろいろな意味があるんだが、特によく用いられるのが、「くする」とができる「可_レ」^カって可能の意味と、「くしてもよい」という許可の意味だ。

その許可の「可_レ」^カを否定副詞「不」で否定すると、「くしてはいけない」という教戒の意味になるんだ。

形式がさっきの否定副詞を用いる「くなかれ」とは違うんで、別扱いされることもあるけど、これもやっぱり禁止の形とっていいと思う。

此^レ時^ニ不^レ可^ク失^フ。

▼此^レの時^ト失^シふべからず。

▽この時機は逃してはならない。

この例、助動詞「可^ク」は許可「〜してもよい」の意味で用いられてる。だから、否定副詞「不^レ」によって「不^レ可^ク」の形で「失^ッてもよい」を打ち消し、「失^ッてはならない」という意味になるわけだ。

ただしな、「不^レ可^ク」がいつも必ず禁止の意味になるとは限らないんだぜ。

「〜できない」という不可能を表すこともあるから注意しろよ。

でも、「べからず」という表現は、訓読から日本語の中に定着したもので、「遅刻すべからず」とか「急ぐべからず」なんかは普通に理解できる表現だけど、たいてい「〜してはいけない」という意味で用いられる。

え？ 質問があるって？ うん、なんだい？

「この時機は失つてはいけない」ってのは「このチャンスを失っちゃいけない」って意味なんだから、語順がおかしいんじゃないのかって？

うん、いい質問だね。

これは禁止とは関係のない話だけど、「可^ク」の性質によるんで、ここできちんと説明しておこうかな？

「初心忘るべからず」って有名なことばがあるじゃないか？

世阿弥の『花鏡』にあることばで、漢文で書くと「初心不^レ可^ク忘^ル」となる。

これを「最初の心を忘れてはいけない」って意味だから「不^レ可^ク忘^ル初心^ヲ」と書くべきだなんて、したり顔に言う人があったりする。

でも、それは2つの意味で漢文がわかっちゃいない人なんだ。

そもそも文頭に名詞を置いて提示するのは別におかしいことじゃない。

中国では主題主語といって、文の主題になる語が文頭に置かれることがあるんだ。

だから、「不^レ可^ク忘^ル初心^ヲ」は、「初心は」とか「初心については」と最初に提示されたものなんだね。次に、「不^レ可^ク忘^ル初心^ヲ」は、構造的には「初心」が述語「不^レ可^ク忘^ル」の目的語になるから、間違っただけじゃない。

でも、ためぐち先生には、なんかおさまりの悪い表現に見える。

なぜかつちゅうとな、助動詞「可^ク」を伴う述語は、本来目的語にあたる語を受事主語として前に出すのが自然だからだよ。

たとえば「胡^ヲ可^ク伐^ツ」は「胡の国は攻めてよい」という意味だけど、本来「胡^ハ伐^ツ」という行為の対象だろ？ところが「可^ク伐^ツ胡^ヲ」と言わずに「胡^ヲ可^ク伐^ツ」と言うほうが自然なのは、「可^ク」の字のもつ性質によるんだ。

その意味では「初心不^カ可^ル忘^ル」の「初心」は受事主語ともいえるんだ。
だから、「不^カ可^ル忘^ル初心^ヲ」よりも「初心不^カ可^ル忘^ル」の方がむしろ自然な表現だよ。
世阿弥は室町時代の日本の能役者だけど、ちゃんとそれがわかってたんだね。
さっきの「此^レ時^ニ不^カ可^ル失^フ」も同じ。何もおかしな表現じゃないんだよ。
わかったかい？

◎ポイント！…否定副詞「不」と許可を表す助動詞「可」の組み合わせ「不可」が禁止を表すことがある。

不^レ可^カ A.ス

▼Aすべからず。

▽Aしてはいけない。・Aしてはならない。

・「～することはいけない」という可能の意味を表すこともある。

さて、禁止の形は以上だ。
今日は短めの授業だったね。
でも、いよいよ次は難関、疑問の形だよ。
気をひきしめていこうな。